

月桂

〔重修本草綱目啓蒙二十三〕月桂 クロツバ アサカイ 因州

天竺桂ノ實ナリ、コノ實ヨリ採ル蠟ヲ、アサダ蠟 阿州ト云、又コガ蠟 防州ツバ蠟 肥前ト云、蠟蠟ニ造リ燃セバ臭氣アリ、集解ノ説甚妄ナリ、凡ソ物ノ子ヲ雨ラスコト、古今其例多シ、略下

〔本草一家言二〕月桂 和名駝毛、唐人題靈隱寺詩、有桂子月中落、天香雲外飄、句詩家皆云、中秋月夜

風起、則滿山降桂子、如雨、古今以爲奇異事、然日本諸州亦多產之、加州一山寺、每年八月、月夜降桂子、

寄來其實、視之白黑相雜、試蒔種、則至易生、乃駝毛也、又紀州紀三井寺、備前州某邑、修驗道者塚上稱

昆蘭樹者、實形如櫛子及甜櫛實、八月熟、谷風一起、則其實飄散、隕於雲外、又伊賀州出者、葉薄似青楊

樹、有疎鋸齒、京路四邊產者、有二種、實赤者曰赤津桂、黑者曰黑津桂、一名胡賀、一名樟面當、葉似菌桂

而背白、俱八月實熟、隨風而零、皆是月桂之種、非他物也、又有月季花、一名月桂紅、一名月繼花、和名四

季茨、花鏡和書或因有月繼之名、誤爲月桂混之、殊非種類也、玄隨錄

〔松屋叢考一〕三樹考略中

櫛ツカダマフキ 古今物名に友則

みよしの、吉野の瀧にうかび出るあわをか玉のきよとみゆらん友則家集にも載て異同あり 同墨滅歌に

勝臣

かけりてもなにをかたまのきてもみんなからはほのほとなりにしものを、などよみて、俗に多

万乃木マノキとよぶ、古今榮雅抄卷十のに櫛ツカダマフキの字を書れしも、靈木の合字なり、漢名は丹陽木西陽雜俎と

も、天竺桂本草綱目とも、山桂同上とも、大樹繁花同上とも、月桂同上ともいふ、舶來の肉桂肉桂よりも

下品、楠にも似たれど、それよりは上品なり、藪肉桂、松浦肉桂、佛多良之、油柴、米牟止宇、太母油、太母

陀万、陀母多夫、久須多夫、多菩久須陀母、玉久左、玉我良、加良陀母、久須米牟止宇、古我乃木、安左加比

阿左陀、黒阿佐太、牟圖、黒都豆、乃木、鹽陀万、黒陀万、古我比乃木、多都乃木、都豆乃木、波奈我、油盜乃木